

米子高専専攻科における研究活動の実態調査

1. アンケート回答者の属性

1.1. 学年

学年	在籍学生数	有効回答数	有効回答率
専攻科 1 年	22 人	12 人	54.5 %
専攻科 2 年	25 人	13 人	52.0 %
合計	47 人	25 人	53.2 %

1.2. 専攻

専攻	在籍学生数	有効回答数	有効回答率
生産システム工学	30 人	15 人	50.0 %
物質工学	8 人	4 人	50.0 %
建築学	9 人	6 人	66.7 %

2. 専攻科 1 年における補助金の利用の現状

2.1. 研究活動に要した金額

	人数	割合
10 万円以上	1 人	4.0 %
5 万円以上	7 人	28.0 %
3 万円以上	5 人	20.0 %
2 万円以上	1 人	4.0 %
1 万円以上	5 人	20.0 %
5 千円以上	2 人	8.0 %
5 千円未満	4 人	16.0 %

2.2. 助成金の過不足について

	人数	割合
不足している	18 人	72.0 %
ちょうど良い	4 人	16.0 %
余っている	3 人	12.0 %

※専攻科 1 年生の令和 6 年度の補助金の現状と専攻科 2 年生の令和 5 年度の補助金の現状を合算して統計

3. 専攻科 2 年における補助金の利用の現状

3.1. 研究活動に要した金額

	人数	割合
10 万円以上	2 人	15.3 %
5 万円以上	0 人	0.0 %
3 万円以上	5 人	38.5 %
2 万円以上	4 人	30.8 %
1 万円以上	1 人	7.7 %
5 千円以上	0 人	0.0 %
5 千円未満	1 人	7.7 %

3.2. 助成金の過不足について

	人数	割合
不足している	10 人	76.9 %
ちょうど良い	2 人	15.4 %
余っている	1 人	7.7 %

4. 補助金に対する意見（自由記述・原文ママ）

- 学会等の開催地が近くても岡山か広島であり、最低でも往復の交通費で約 1 万円かかる。関東であれば交通費だけで約 5 万円かかり、助成金の限度額を余裕で超えてしまう。交通費に加えて宿泊費もかかるので、2 万円では到底足りない。
- 学会が鳥取県内や隣県などで開催される場合は充分だが、四国や九州、関東などで開かれる学会については明らかに不足していることがいえる。もしも学校側が積極的に学会に参加すべきだという姿勢ならば、助成金は増額すべきである。
- 現在は少し少ないように感じます。
- 全国調査を現在しているが、研究費がないため自発的に調査しに行けない。そのため、学生が使える研究費も欲しい。
- 現状足りるか足りないかで言えば、ギリギリ足りていないくらいで済んでいるが、そもそも 2 万円しか出ないことで学会参加を見送ってしまうのがもったいないと思う。